



第28回山車コンクール

最優秀賞は羽場若連の風流「鬼揃紅葉狩」。表現性や造形性はもちろん、引き方なども評価され、2年連続の受賞となりました。



羽場若連
風流「鬼揃紅葉狩」



山崎若連
風流「京鹿子 娘道成寺」



内町若連
風流「川中島」



十日町若連
風流「茨木」



七日町若連
風流「桃太郎 鬼ヶ島統一」

8月14日、午後7時30分。舞台はまだ蒸し暑い夜の金山。きらびやかな光を放つ山車がゆっくりと動き始める。腹の奥にずしりとくる囃子も、威勢の良い掛け声もどこか心地よい。「ああ、今年もこの季節か」。3日間だけの夏の祭典に想いを馳せる――。

金山まつり 心燃ゆる3日間

夏にかける

8月14日～16日の三日間、金山まつりが開催され、町内外からの観覧者や帰省客などで大いに賑わいました。今年も5地区の若連が山車を制作。14日の宵まつりと15日の本まつりにおいて、威風堂々と町内を巡回しました。本まつりでは、町観光大使の斉藤祥太・慶太さんが先導。金山の夏をさらに熱くしました。山車コンクールを受けて、審査員を務めた鈴木町長は「わずかな差で羽場若連に軍配が上がった。しかしどの若連をとってもレベルの高い山車ばかり。これからも、山車制作を通して金山まつりを盛り上げてほしい」とそれぞれの山車を評価し、祭りの隆盛を祈念していました。人口減少にともなう担い手不足。金山まつりにとっては、それは大きな問題です。しかし今年も各若連ともに、ひと夏にかける想いを結集し、素晴らしい山車と囃子が出揃いました。想いを次世代に繋ぎ、これからも末永く、心燃ゆる3日間となるよう願うばかりです。

— Photo Report —
フォトリポート